

## 看護学生のメディアからの情報収集に関する実態（第2報）

—本学看護学科2期生の入学時の調査から—

南雲美代子<sup>1)</sup> 滝内隆子<sup>2)</sup> 大島弓子<sup>3)</sup> 佐々木真紀子<sup>4)</sup> 酒井志保<sup>1)</sup>

### **A Study of Obtaining Informations from Media among Students Through a Survey to the New Students ( of the Second School Year ) Belonging to the Department of Nursing. (2nd. Report)**

Miyoko NAGUMO Takako TAKIUCHI Yumiko OSHIMA Makiko SASAKI Shiho SAKAI

**要旨：**日本赤十字秋田短期大学看護学科2期生におけるメディアからの情報収集の状況を明らかにする目的で、多肢選択（一部自由記載）による質問紙での調査を入学時に実施した。調査内容は、対象者の属性、新しい情報を得る手段、新聞・雑誌の閲読状況、読書志向などである。79の有効回答を集計した結果、以下の結論が得られた。1) 新しい情報を得る手段の1位は、テレビがほとんどであった。また、上位3つのメディアとしては、電気通信系のマスメディアであるテレビと活字によるマスメディアである新聞・雑誌・本と会話の3領域から得ている学生が約6割だった。2) テレビを「よく見る」「時々見る」をあわせると約9割で、よく見る番組は、ドラマ・歌・ドキュメンタリーなどであった。3) 新聞を毎日読んでいる学生は約3割で、よく見る新聞欄は、テレビ・ラジオ番組・医療福祉関係・事件であった。また、家族らと同居している学生は、新聞が生活の身近にあり読んでいる割合も高かった。4) 雑誌をよく読む学生は約4割で、読んでいる雑誌は、ファッション雑誌が多かった。5) 本をよく読む学生は約2割で、読んでいる本の種類は、小説・医療福祉看護・ノンフィクションが多く、印象に残った本の種類もこの3種類がほとんどだった。6) 新聞をよく読む学生は、雑誌・本もよく読んでおり、新聞を読まない学生は、雑誌・本もあまり読んでいなかった。また、新聞の閲読状況にかかわらず、学生は本よりも雑誌を多く読んでいた。

**キーワード：**情報収集、新聞購読、読書志向、メディア

**Summary :** To study the student nurses' tendency of obtaining informations from media, questionnaire form with multiple choices was given to the new-incoming students of our college. The form was consisted of ; ① the background of each student, ② the way of obtaining new informations, ③ subscription state of newspapers or journals, and ④ preference of reading. 79 effective replies were analyzed and several conclusions were drawn : 1) Most student obtains news and informations from T.V. 60% of students obtain informations; firstly from T.V., as an imaginative mass-media, secondly from newspapers and journals as a written-media, and lastly from conversation with others. 2) Almost 90% of students watch (or sometimes watch) T.V., and their favorite programs are drama , music , documentary and so forth. 3) 30% of students read newspaper, while their attentions are payed mainly on T.V./radio program, medical/welfare-service related news,and on accidents. The more they live with their families, the higher becomes the ratio of their reading newspapers. 4) 40% of students read journals, mainly fashion related ones. 5) 20% of students are favor of reading books.Kinds of their favorite books are novels,medical/welfare-services related ones, and non-fictions. 6) The students who read newspaper may well read journals and books. Those who don't read newspaper don't read journals and books as well, Additionally, students prefer journals to books, whether they read newspaper or not.

**Key Word :** Obtaining informations, Subscribing Newspaper, Favor of Reading, Media

---

看護学科 1) 助手 2) 助教授 3) 教授 4) 講師

I. はじめに

昨年、筆者らは、日本赤十字秋田短期大学（以下本学という）看護学科1期生にメディアからの情報収集に関する調査<sup>1)</sup>を行なった。情報収集メディアとしてテレビが多かったことから視聴覚教材を多く用いるなど、この調査結果を生かすことによって、教授・学習活動を効果的に進めていくことができた。2期生に関してもこの調査を継続していくことは、調査結果をさらに深めて、教授活動や学生の学習活動に有効に活用できると考えた。そこで、今回は、本学の看護学科2期生に対し、学生の背景や新しい情報収集メディアとして多かったテレビや雑誌からどのような情報を得ているのかの視点を加えた調査を行うこととした。

なお、この研究は入学時に本学2期生に実施した調査の一部である。

<用語の操作的定義>

- 情報：判断を下したり、行動を起こしたりするために必要な知識、事柄。
- 情報収集：情報を集めること、集めたもの。
- メディア：（情報を得るための）媒体、手段。

II. 研究目的

本学看護学科2期生が、どのようなメディアからどのような情報を得ているのかを明らかにする。

III. 研究方法

1. 調査対象：本学看護学科2期生80人
2. 調査期間：平成9年4月15日
3. 調査方法：筆者らが作成した質問紙による集合調査。被調査者には、調査の目的を説明し了解を得たうえで記名式とした。調査項目は、a. 対象の背景（年齢・出身地・生活形態）、b. 新しい情報収集メディア、c. 新聞の閲読状況、d. 新聞の購入状況、e. よく読む新聞欄、f. 雑誌の閲読状況、g. 雑誌の種類、h. 読書状況、i. 読書の種類・印象に残った本であり、a～f. h. については多肢選択法、g. i. については自由記載法とした。

4. 分析・集計方法

多肢選択法の回答については、単純集計をおこなった。自由記載のg. i. については、記載内容を1要素1内容に分類した上で、カテゴリー化し、それぞれのカテゴリーに命名を行った。カテゴリー化の信頼性を高めるために、一定期間をおき3回検討を行った。その後新聞の閲読

状況とa. d. f. h間でクロス集計を行い、差を明確にするために $\chi^2$ 検定を行った。

IV. 結果

1. 回答者数は80人、有効回答者数は79人であった。

2. 対象の背景

1) 年齢

「18～19歳」が74人（93.7%）、「20～25歳」が5人（6.3%）で、高校卒業直後の学生がほとんどだった。

2) 出身地

「秋田県内」が57人（72.2%）、「北海道を含む秋田近県」が17人（21.5%）、「関東」が5人（6.3%）で、秋田県内の学生が約7割であった。

3) 生活形態

「家族らと同居」が35人（44.3%）、「寮」が23人（29.1%）、「一人暮らし」が16人（20.3%）、「その他」が5人（6.3%）で、家族らと同居していない学生が半数以上を占めていた。

3. 新しい情報収集のメディア

1) 新しい情報収集のメディアの順位別記載人数

新しい情報を得ているメディアの1位から3位に記載があった76人の記載内容を順位別に分類したものが図1である。最も多かったメディアは、1位では「テレビ」が67人（88.3%）、2位では「新聞」が25人（32.9%）、3位で「会話」が29人（38.2%）であった。

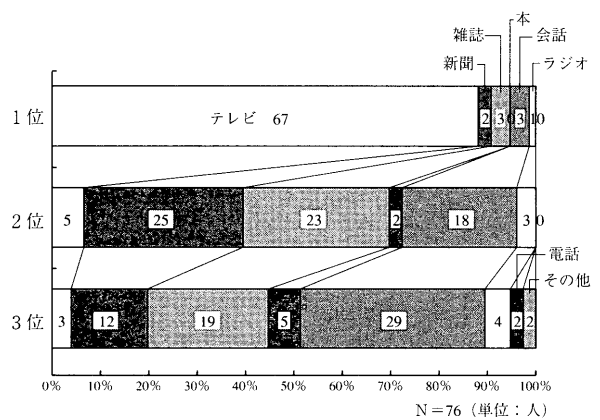


図1 新しい情報収集のメディアの順位別記載人数

## 2) 個人別にみた新しい情報収集のメディアの領域別組み合わせ方

新しい情報収集のメディアの1位から3位に記載のあった76人の記載内容の組み合わせ方を個人別に分類し、さらに、テレビやラジオなどの電気通信系によるもの（以下『電気通信系』という）、新聞・雑誌・本などの活字によるもの（以下『活字』という）、『会話』の3種類の領域別に分類したものが表1である。『電気通信系』『活字』『会話』の3領域から情報収集している学生が45人と最も多く、次いで『電気通信系』『活字』の2領域から情報収集している学生が25人であった。記載内容の組み合わせ方では、「テレビ・雑誌・会話」が25人と最も多く、次いで「テレビ・新聞・会話」が18人であった。

表1 個人別にみた新しい情報収集のメディアの領域別組み合わせ方

メディアの領域別人数 (%)	上位3つのメディアの組み合わせ方人数 (順位不同)
『電気通信系』	テレビ・雑誌・会話 25
『活字』	テレビ・新聞・会話 18
『会話』	テレビ・本・会話 2
45 (59.2)	
『電気通信系』	テレビ・雑誌・新聞 14
『活字』	テレビ・新聞・ラジオ 4
25 (32.9)	テレビ・雑誌・ラジオ 3
	テレビ・雑誌・本 2
	テレビ・新聞・本 2
『電気通信系』	テレビ・ラジオ・会話 1
『会話』	
1 (1.3)	
『活字』	雑誌・本・会話 1
『会話』	
1 (1.3)	
その他	テレビ・会話・電話 2
4 (5.3)	テレビ・新聞・その他 1
	テレビ・会話・その他 1

『電気通信系』：テレビ・ラジオなど N=76 (単位：人数)

『活字』：新聞・雑誌・本など

『会話』：会話

## 4. テレビの視聴状況とよく見るテレビ番組

## 1) テレビの視聴状況

「よく見る」が54人 (68.4%)、「時々見る」が17人 (21.5%)、「あまりみない」が8人 (10.1%) で約9割の学生がテレビを見ていた。

## 2) よく見るテレビ番組

よく見るテレビ番組に記載のあった79人の記載総件数428件を分類したものが表2である。「ドラマ」が69件と最も多く、次いで「歌」が59件、「ドキュメンタリー」が45件であった。

表2 よく見るテレビ番組

テレビ番組	件数 (%)
1. ドラマ	69 (16.1)
2. 歌	59 (13.8)
3. ドキュメンタリー	45 (10.5)
4. バラエティー	42 (9.8)
5. 医療・福祉	41 (9.6)
6. ニュース	41 (9.6)
7. 映画	40 (9.3)
8. スポーツ	27 (6.3)
9. ワイドショー	23 (5.4)
10. 料理	17 (4.0)
11. トーク	15 (3.5)
12. クイズ	9 (2.1)

N=428 (単位:件数 複数回答)

## 5. 新聞の閲読状況と購入状況、よく読む新聞欄

## 1) 新聞の閲読状況

『毎日読む』が26人 (32.9%)、『時々読む』が36人 (45.6%)、『読まない』が17人 (21.5%) であった。

## 2) 新聞の購入状況

新聞を「購入している」が44人 (55.7%)、「購入していない」が35人 (44.3%) であった。

3) よく読む新聞欄

よく読む新聞欄に記載のあった62人の記載総件数287件を分類したものが表3である。「テレビ・ラジオ番組」が59件と最も多く、次いで「医療・福祉関係」が32件、「事件」が31件であった。

表3 よく読む新聞欄

新聞欄	件数(%)
1. テレビ・ラジオ番組	59 (20.6)
2. 医療・福祉関係	32 (11.1)
3. 事件	31 (10.8)
4. スポーツ	28 (9.8)
5. 県内のニュース	25 (8.7)
6. 読者の声	24 (8.4)
7. 広告	18 (6.3)
8. 文化	17 (5.9)
9. コラム	15 (5.2)
10. 社説	13 (4.5)
11. 国際	10 (3.5)
12. 政治	5 (1.7)
13. 家庭	2 (0.7)
14. 科学	2 (0.7)
15. マンガ	2 (0.7)
16. 小説	2 (0.7)
17. 経済	2 (0.7)

N=287 (単位:件数 複数回答)

6. 雑誌の閲読状況と種類

1) 雑誌の閲読状況

「よく読む」が31人 (39.2%)、「時々読む」が36人 (45.6%)、「読まない」が12人 (15.2%)であった。

2) 雑誌の種類

読んでいる雑誌の種類に記載のあった63人の記載総件数95件を種類別に分類したものが表4である。「ファッション」が59件と最も多く、次いで「音楽」が8件、「料理」が7件であった。

2) 読書の種類

読書の種類に記載のあった63人の記載総件数91件を分類したものが表5である。「小説」が37件と最も多く、次いで「医療・福祉・看護」が15件、「ノンフィクション」が8件であった。

3) 印象に残った本

印象に残った本に記載のあった65人の記載総件数73件を種類別に分類したものが表6である。「小説」が28件と最も多く、次いで「医療・福祉・看護」が20件、「ノンフィクション」が12件であった。

表4 読んでいる雑誌の種類

種類	記載件数(%)	記載内容	
1. ファッション	59 (62.1)	ファッション雑誌	47
		洋服・服の雑誌	4
		non no	3
		non noやan an	2
		an an	1
		can can	1
2. 音楽	8 (8.4)	音楽の雑誌	8
		Mc sister	1
3. 料理	7 (7.4)	料理に関する雑誌	6
		オレンジページ	1
4. 映画	5 (5.3)	映画	5
5. テレビ	4 (4.2)	テレビに関する雑誌	2
		テレビガイド	2
6. その他	12 (12.6)	スポーツ	2
		情報誌	2
		雑貨	2
		通信販売	1
		ナース専科	1
		マンガ	1
		健康雑誌 (ホスピタン)	1
		海外雑誌	1
週刊誌	1		

N=95 (単位:件 複数回答)

7. 読書の状況と読書の種類・印象に残った本

1) 読書状況

「よく読む」が16人 (20.2%)、「時々読む」が48人 (60.8%)、「読まない」が15人 (19.0%)であった。

表5 読書の種類

種類	記載件数(%)	記載内容
1. 小説	37 (40.6)	小説 25
		推理小説 5
		物語 2
		ハードボイルド・サスペンス
		・探偵小説・推理小説 1
		サスペンス 1
		シドニィシェルダン 1
		恋愛小説 1
		軽い感じの小説 1
		2. 医療・福祉・看護
		医療・看護関係 2
		医療・福祉・看護関係 2
		看護婦の体験記など 2
		福祉関係 1
3. ノンフィクション	8 (8.8)	ドキュメント 3
		ノンフィクション 3
		一人の生涯を追う本 1
		AIDSや病気と戦っている人 1
4. エッセイ	4 (4.4)	エッセイ 4
5. 詩集	4 (4.4)	詩集 3
		智恵子抄 1
6. いろいろな本	3 (3.3)	いろいろ 3
7. ジャンルは問わない	3 (3.3)	特にこだわりはない 2
		ジャンルは問わない 1
8. 話題になっている本	2 (2.2)	話題になっている本 1
		売れている本 1
9. その他	15 (16.5)	写真 1
		純文学 1
		英米文学 1
		ファンタジー 1
		ホラー 1
		山田詠美・吉本ばなな・
		銀色夏生など 1
		フィクション 1
		環境問題関係 1
		ドラマが本になったもの 1
		人にすすめられて題にひかれて 1
		「生きるヒント」のようなもの 1
		興味を持ったもの 1
		戦争もの 1
		戦争関係以外のもの 1
心理学の本 1		

N=91 (単位: 件 複数回答)

8. 対象の背景と新聞の閲読状況および購入状況

1) 年齢別にみた新聞の閲読状況

「18～19歳」では、『毎日読む』が23人(31.1%)、『時々読む』が35人(47.3%)、『読まない』が16人(21.6%)であった。「20～25歳」では、『毎日読む』が3人(60.0%)、『時々読む』が1人(20.0%)、『読まない』が1人(20.0%)であった。

表6 印象に残った本

本の種類 (%)	本の題名			
1. 小説 28 (38.4)	氷点 3	飛ぶ男 1	1	
	人間失格 2	モモ 1	1	
	こころ 2	ゲド戦記 1	1	
	アンネの日記 2	はてしない物語 1	1	
	塩狩峠(三浦綾子) 2	黒猫館 1	1	
	アソブ・グリーン・グーブルズ 1	橋のない川 1	1	
	アルジャーノンに花束を 1	砂の女 1	1	
	友情 1	きよらの香(宮尾登美子) 1	1	
	ア・ルース・ボーイ 1	キッチン(吉本バナナ) 1	1	
	パラサイト・イブ 1	大地 1	1	
	星の王子様 1	変身 1	1	
	2. 医療・福祉・看護 20 (27.4)	病院で死ぬということ 5	こちら救急センター 1	1
		脳内革命 3	産女の夏 1	1
もっと生きたい 2		ナイチンゲールの本 1	1	
小児病棟 1		顔つぶれても輝いて 1	1	
医療の倫理 1		病・病院で死ぬということ 1	1	
家で看取ることと看取られること 1				
看護婦だからできること(宮子あずさ) 1				
看護婦が見つめた人間が死ぬということ 1				
3. ノンフィクション 12 (16.4)	私をだいてそしてキスして(家田荘子) 2			
	シーラという子 1	サクリファイ 1	1	
	龍平の現在 1	ヘレン・ケラー 1	1	
	涙のアンパンマンマーチ 1	生きてこそ(ワツタカコ) 1	1	
	愛深き淵より 1	ひめゆりの塔 1	1	
	旅立とう、今 1	ギルバート・グレイブ 1	1	
	生きるヒント 2	ふたり 2	2	
4. エッセイ 4 (5.5)	智恵子抄 1	金子みすず全集 1	1	
	いいことから始めよう 1	天使の卵(村山由佳) 1	1	
5. 詩集 2 (2.7)	生きるということ 1	今を生きる 1	1	
	いのち生まれ生き老いて 1	つばさを返して 1	1	
6. マンガ 2 (2.7)	出会い 1			
7. その他 5 (6.9) (題名だけでは分類できなかった本)				

N=73 (単位: 件 複数回答)

2) 出身地別にみた新聞の閲読状況

「秋田県内」では、『毎日読む』が23人(40.3%)、『時々読む』が25人(43.9%)、『読まない』が9人(15.8%)であった。「北海道を含む秋田近県」では、『毎日読む』が1人(5.8%)、『時々読む』『読まない』が各8人(47.1%)であった。「関東」では、『毎日読む』が2人(40.0%)、『時々読む』が3人(60.0%)であった。

3) 生活形態別にみた新聞の購入状況

生活形態別にみた新聞の購入状況を示したものが図2である。「家族らと同居」では35人全員が、「寮」では6人、「その他」では3人が新聞を購入していたが、「一人暮らし」では誰も新聞を購入していなかった。生活形態と新聞の購入状況の間に、0.1%水準で有意な関係がみられた。

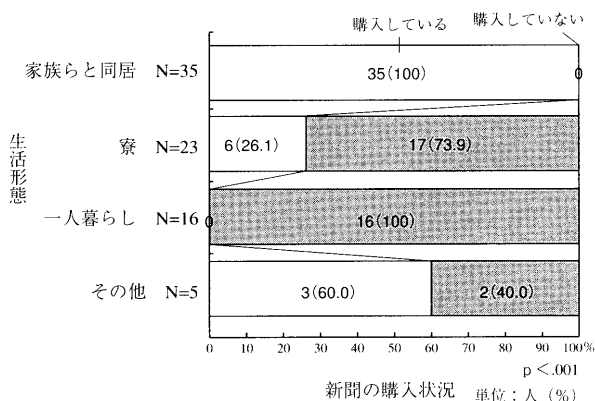


図2 生活形態別にみた新聞の購入状況

4) 生活形態別にみた新聞の閲読状況

生活形態別にみた新聞の閲読状況を示したものが図3である。「家族らと同居」では、『毎日読む』が18人、『時々読む』が15人、『読まない』が2人であり、「寮」では、『毎日読む』が4人、『時々読む』が13人、『読まない』が6人であった。「一人暮らし」では『毎日読む』が2人、『時々読む』と『読まない』が各7人で、毎日読む割合は、「家族らと同居」している学生が多く、「一人暮らし」の学生は少なかった。生活形態と新聞の閲読状況の間に1%水準で有意な関係がみられた。

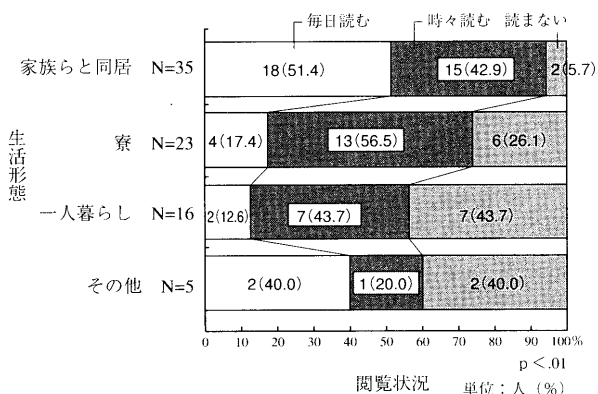


図3 生活形態別にみた新聞の閲読状況

9. 新聞の閲読状況と雑誌の閲読状況

新聞の閲読状況別にみた雑誌の閲読状況を示したものが図4である。

新聞を『毎日読む』26人中、雑誌を「よく読む」は16人、「時々読む」は8人、「読まない」は2人であった。新聞を『時々読む』36人中、雑誌を「よく読む」は11人、「時々読む」は19人、「読まない」は6人であった。新聞を『読まない』17人中、雑誌を「よく読む」は4人、「時々読む」は9人、「読まない」は4人で、新聞を『毎日読む』学生は、雑誌の閲読も「よく読む」が多く、読む傾向にあった。

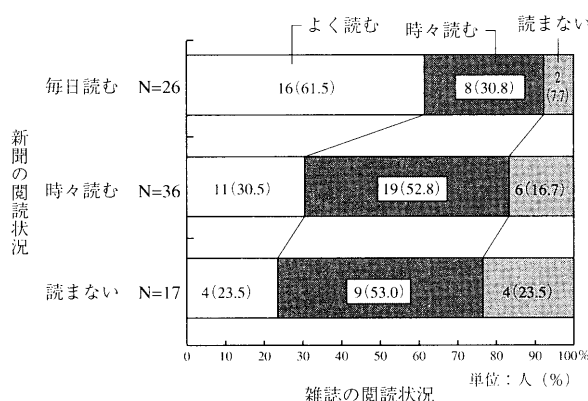


図4 新聞の閲読状況別にみた雑誌の閲読状況

10. 新聞の閲読状況と読書状況

新聞の閲読状況別にみた読書状況を示したものが図5である。新聞を『毎日読む』26人中、本を「よく読む」は8人、「時々読む」は15人、「読まない」は3人であった。新聞を『時々読む』36人中、本を「よく読む」は6人、「時々読む」は26人、「読まない」は4人であった。新聞を『読まない』17人中、本を「よく読む」は2人、「時々読む」は7人、「読まない」は8人で、新聞の閲読が毎日の学生は、読まない学生に比べて、読書状況もよく読んでおり、新聞を読まない学生は、読書も少なかった。新聞の閲読状況と読書状況の間に、5%水準で有意な関係がみられた。

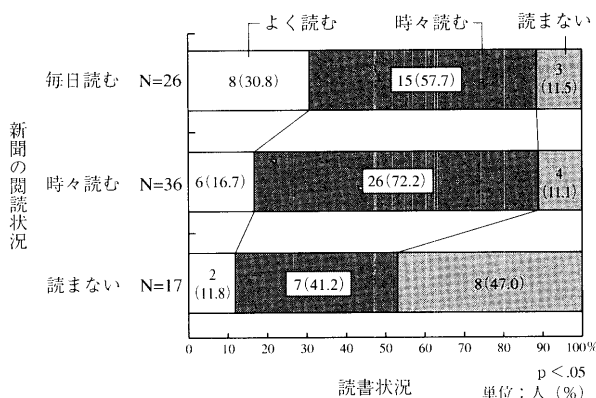


図5 新聞の閲覧状況別にみた読書状況

## V. 考察

### 1. 新しい情報収集のメディアについて

新しい情報収集のメディアとして1位に「テレビ」をあげている学生が約9割いる。これは、ほとんどの学生がテレビから情報を得ていると考えられる。1期生の調査<sup>2)</sup>とは回答方法が相違するので比較することは難しいが、この結果は、1期生も同様の傾向があり、テレビが一番多かった。また、個人別にみた新しい情報収集のメディアの領域別の組み合わせ方では、『電気通信系』『活字』『会話』の3領域から情報を得ている学生が最も多かった。

3領域から情報を得ている学生は、「テレビ」から興味、関心がある情報やリアルタイムな情報を得ており、「雑誌・新聞・本」などからは、読むことによって、論理的に思考を組み立て、自分の思考をまとめたり、深めたりして情報を得ている。そして、「会話」からは、他者の意見を聞きながら、自分の意見を言うことによって、自分の思考を発展させたり、まとめているのではないかと考えられる。このように3領域の異なったメディアから情報収集している学生は、多様な情報をとらえているのではないかと考えられる。しかし、2領域から情報収集している学生も約4割いた。2領域の中では、『電気通信系』と『活字』が多いことから、『会話』からの情報が少ないと考えられる。会話は、前述したように学生の思考を深めていくためには重要である。したがって、教授活動の中で、ゼミナール・カンファレンスなど他者の意見を聞き、また自分の意見を言う機会が多い授業を多く取り入れるなどして、より幅広く情報を得よう指導していく必要があると思われる。

### 2. テレビの視聴状況とよく見る番組について

テレビを「よく見る」と「時々見る」を合わせると約90%であった。NHK国民生活調査<sup>3)</sup>でも平日のテレビを見ている行為者は92.1%であり、同じ傾向がみられた。このことから、日本人にとってテレビが生活に密着しており、学生の中にもテレビが一体化していることが考えられる。

よく見るテレビ番組で「ドラマ」が最も多かったが、これは、今や主流になっている1980年代後半から開始された、いわゆる「トレンドドラマ」の活況が影響していると考えられる。田村ら<sup>4)</sup>は、トレンドドラマは一般に現代の人間関係をゲーム感覚的に描いた若者向けドラマと定義しており、ストーリーの構成や展開は、日本人の現在の社会や意識を反映させているため、時代が生んだ流行と言えると述べている。ドラマが、よく見る番組のトップであることは、若者である本学の学生の興味が、時代の流行にそったものであると考えられる。また、「ニュース」「スポーツ」なども活字として新聞や雑誌から情報を得ることができるが、活字はリアルタイムに欠けるので、よく見る番組の上位にあがっていると考えられる。これらの結果をふまえた教育への対応は、この年代の興味関心があるドラマなどを教材に用いたり、リアルタイムで得られた情報をインプットしていくことが効果的であると考えられる。

### 3. 対象の背景と新聞の閲読状況、よく読む新聞欄について

新聞を『毎日読む』と『時々読む』をあわせると78.5%であった。これは、1期生と同様の結果<sup>5)</sup>であった。寺出ら<sup>6)</sup>の女子大学生・短大生を対象とした朝の新聞の閲読状況と比較すると本学の学生は、新聞を読む傾向にあると言える。

年齢別・出身地別にみた新聞の閲読状況は、年齢別では「20～25歳」の学生が、出身地別では「秋田県内」「関東」の学生が、新聞を読む傾向にあると思われるが、対象者数が少ないのではっきりとしたことはいえない。

次に生活形態と新聞の購入状況は、「家族らと同居」では全員が新聞を購入しており、「一人暮らし」では誰も購入していなかった。これは、「家族らと同居」では、家で新聞を購入しているためと思われる。一方、1ヶ月約3,000円の新

聞の購読料は、一人暮らしの学生にとっては大きな出費であるためと思われる。また、生活形態と新聞の閲読状況との関係では、「家族らと同居」では、『毎日読む』と『時々読む』をあわせると94.3%であったが、「一人暮らし」では、56.3%であった。これらは、新聞の閲読状況が、新聞の購入状況や生活形態に影響されており、「家族らと同居」の学生は、積極的に読むというよりは身近に新聞があるから読むのではないかと考えられる。また、「一人暮らし」で毎日新聞を読んでいる学生は、図書館などを利用し新聞を読んでいるのではないかと推察される。

よく読む新聞欄をみると「テレビ・ラジオ番組」が、最も多かった。これは、テレビ・ラジオ番組をみることによって、どのような情報をどのような番組から得たらよいかを選択するため見ているのではないかと考えられる。次いで「医療・福祉関係」が、「事件」や「県内のニュース」より多かった。これは、本学の学生は、専門職を目指す学生でありこの分野に興味があることが考えられる。しかし、看護は対象を幅広く理解する必要がある、自分自身の豊かな人間性も求められる。したがって、専門分野に偏らず、文化・芸術などを含め、多方面にわたる情報に興味・関心を持つ教育が必要と思われる。

#### 4. 雑誌の閲読状況と雑誌の種類について

雑誌の閲読状況は『よく読む』と『時々読む』をあわせると84.8%であり、本学の学生は雑誌を読むことが多い。よく読む雑誌の種類として『ファッション』が最も多い。これは、この年代の学生が、ファッションに関心があるためと考えられる。しかも『ファッション』は流行がめまぐるしく、それだけに新しい情報としてとらえているのではないかと考えられる。しかし、『ファッション』雑誌は、日常生活の情報や社会現象を取り上げた特集なども組まれている。また、エッセイや短編小説などさまざまな情報も載っている。このことから『ファッション』雑誌から学生が得ている情報は、ファッションだけではなくとも考えられる。

#### 5. 読書状況と読書の種類について

読書状況は、『よく読む』と『時々読む』をあわせると81.0%であった。読書の種類として『小説』『医療・福祉・看護』『ノンフィクション』が上位3つを占めていることは、1期生と同様の結果<sup>7)</sup>であった。

また、印象に残った本の中でも、「小説」「医療・福祉・看護」「ノンフィクション」が多かった。森<sup>8)</sup>の女子短期大学生の読書調査では、感動した本、印象に残った本は、「小説」に分類された「ころ」「人間失格」「モモ」などで、「医療・福祉・看護」はなかった。この結果と本学の結果を比較すると、本学の場合、学生の職業志向<sup>9)</sup>が読書に影響を与えていると考えられる。

#### 6. 新聞の閲読状況と雑誌の閲読状況、読書状況について

新聞を『毎日読む』学生は、雑誌や本も「よく読む」が多かったが、新聞を『読まない』学生は、雑誌や本の閲読も少なかった。新聞を『読まない』学生が、活字に慣れ親しんでいない点では1期生と同様の結果<sup>10)</sup>であった。専門職を目指す短大生にとって、流れる情報をとらえるだけでなく、活字を読み、論理的に思考を組み立てることは不可欠であるため、新聞を『読まない』学生には、教材として工夫した資料を用いるなどして、読むことを習慣化させ、活字から思考を深める教育的アプローチが必要であると考えられる。

『雑誌の閲読状況』の「よく読む」と『読書状況』の「よく読む」を比較してみると、雑誌をよく読むが約2倍高かった。これは、イラストや写真などが多く載っている「雑誌」のほうが「本」より親しみやすく、また短時間でも読むことができるので気軽に読めるからではないかと考えられる。これらのことから教材としては、体系化された活字の多いものばかりでなく、雑誌などのビジュアルなものの活用が効果的であると考えられる。

本研究の限界は、1) メディアからどのような意識で情報を得ているかを調査していないため、その点からの分析が不十分である、2) 1施設の調査であるため、一般化に限界があるなどがあげられる。

今後の課題は、これらの研究の限界に挑戦することと、学生の変化を継続的に調査し、学生の持つニーズを明確にしていくことである。

#### VI. 結論

今回の調査により、以下の結論が得られた。

1. 新しい情報収集のメディアの1位は、テレビがほとんどであった。また、上位3つのメディ



- アとしては、『電気通信系』であるテレビと『活字』である雑誌・新聞・本と『会話』の3領域から情報を得ている学生が約6割だった。
2. テレビを「よく見る」「時々見る」をあわせると約9割で、よく見る番組は、ドラマ・歌・ドキュメンタリーなどであった。
  3. 新聞を毎日読んでいる学生は約3割で、よく見る新聞欄はテレビラジオ番組・医療福祉関係・事件であった。また、家族らと同居している学生は、新聞を読んでいる割合が高かった。
  4. 雑誌をよく読む学生は約4割で、読んでいる雑誌はファッション雑誌が多かった。
  5. 本をよく読む学生は約2割で、読んでいる本の種類は小説・医療福祉看護・ノンフィクションが多く、印象に残った本の種類も、この3種類がほとんどだった。
  6. 新聞をよく読む学生は、雑誌・本もよく読んでおり、読まない学生は雑誌・本もあまり読んでいなかった。また、新聞の閲読状況にかかわらず、学生は本よりも雑誌を多く読んでいた。

#### Ⅶ. おわりに

今回の調査にご協力くださいました本学の看護学科2期生の皆様に心より、お礼申し上げます。

#### 引用文献

- 1) 南雲美代子, 滝内隆子, 佐々木真紀子, 大島弓子: 看護学生のメディアからの情報に関する実態—本学看護学科1期生の入学時調査から—, 秋田短期大学紀要, No.1, pp77-82, 1996.
- 2) 前掲1) p78.
- 3) データブック国民生活時間調査, NHK放送文化研究所, p.12, 1995.
- 4) 田村穰生, 鶴木真: メディアと情報のマトリックス, 弘文堂, pp.117-118, 1995.
- 5) 前掲1), pp.78-79.
- 6) 寺出浩司: 現代の若者像、実践女子短期大学評論, No.13, p.52, 1992.
- 7) 前掲1), p.79.
- 8) 森 智彦: 東横学園女子短期大学生読書調査, 東横学園女子短期大学紀要, No.23, pp.135-136, 1988.
- 9) 酒井志保, 滝内隆子, 佐々木真紀子, 大島弓子: 看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態—本学看護学科1期生の入学時調査から—, 秋田短期大学紀要, No.1, pp83-90, 1996.

10) 前掲1), p.81.

#### 参考文献

- 1) 金内花枝: 生活行動の時間的分析, 駒澤大学苫小牧短期大学紀要, No.22, 1990.
- 2) 小畑義, 村上静子, 洲脇絢子他: 平成元年度学生生活実態調査報告書, 京都市立看護短期大学紀要, No.15, 1990.